

## 経営分析

### 2021年3月期の概要

#### 経営成績の分析

2021年3月期の業績は、第2四半期以降回復基調となり、中国では好調な市場環境により生産台数が増加し、他地域においても生産回復しましたが、第1四半期における新型コロナウイルス感染拡大に伴う稼働停止や第4四半期における一部地域の半導体不足の影響で、量産売上が減少し、売上高は2,094億円(前期比8.3%減)となりました。利益につきましては、増益となった中国、欧州を除く地域の減収の影響等により、営業利益は81億円(前期比7.2%減)となりました。経常利益は、金融緩和による金利低下やドル安の結果、為替差益など金融収支が改善し、87億円(前期比1.0%減)となりました。親会社株主に属する当期純利益は、非支配株主に帰属する純損失があった一方で、日本および中国の税負担が減少し、65億円(前期比15.9%増)となりました。

### 2022年3月期の見通し

連結業績予想については、2022年3月期も半導体供給に関するリスクはあるものの、受注生産台数の増加や、さらなる体質改革などを織り込むことにより、売上高は2,387億円

### 利益配分に関する基本方針及び次期の配当

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目的として、成長投資とリスクを許容できる株主資本の水準を維持すること、および安定的・継続的な株主還元を実施することを基本方針としております。今後とも、基本方針を継続することにより、長期投資家の期待に応えてまいります。

#### 財政状態の概況

2021年3月期末における資産合計は、前期末と比べ58億円増加し、2,380億円となりました。また、負債合計は前期末より77億円減少し、929億円となりました。

純資産合計は主に、為替換算調整勘定、利益剰余金、その他有価証券評価差額金、退職給付に係る調整累計額の増加により、前期末と比べて135億円増加し、1,451億円となりました。

#### キャッシュ・フローの概況

2021年3月期における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の期末残高は、59億円減少し、260億円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動のキャッシュ・フローは、251億円の資金増加となり、前期が229億円の増加であったことに比べて、22億円の増加とな

(前期比14.0%増)を予想しています。利益面では、営業利益124億円(前期比54.0%増)、経常利益は121億円(前期比39.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は

2022年3月期の配当は、当社ジーテクト発足10周年の記念配当を実施いたします。中間・期末配当金ともに1株につき3円ずつを記念配当として、年間では前期比6円増配の1株につき56円を予定しています。

今後とも上記の方針を踏まえ、当社グループの業績動向、収益および財務基盤、事業

りました。主な増加要因は、税金等調整前当期純利益83億円、減価償却費197億円です。減少要因は、売上債権の増加44億円、法人税等の支払額20億円などです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動のキャッシュ・フローは、155億円の資金減少となり、前期が250億円の減少であったことに比べて、95億円の増加となりました。主な減少要因は、海外拠点の工場拡張および生産能力拡大投資に伴う有形固定資産の取得による支出192億円、無形固定資産の取得による支出3億円です。増加要因は、定期預金の減少39億円です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動のキャッシュ・フローは、173億円の資金減少となり、前期が135億円の増加であったことに比べて、309億円の減少となりました。主な減少要因は、短期借入金の減少141億円、配当金の支払額21億円です。

86億円(前期比31.7%増)を予想しています。為替レートにつきましては、1米ドル105.00円、1元16.30円、1タイバーツ3.42円、1英国ポンド145.00円を前提としています。

環境等を総合的に勘案し、手元流動性の維持と配当資金を確保したうえで、増配を継続してまいります。

【参照】 <https://www.g-tekt.jp/ir/management/risk.html>



### 事業別／得意先別売上高の概況

#### 2021年3月期の実績

事業別では、車体部品事業が新型コロナウイルス感染拡大の影響による減産、機種構成の変化、半導体供給問題等により減収

(前年同期比11.4%減)となりました。

得意先別では、ホンダ様向け売上高構成比が前期並みとなりました。トヨタ様向けは、中国セグメントの生産台数が前期比で増加

した結果、売上高構成比が16.4%に拡大しました。欧州系OEMについては、欧州セグメントのBMW様向け生産台数が拡大しました。

(単位:億円)											
	2017年 3月期	2018年 3月期		2019年 3月期		2020年 3月期		2021年 3月期		2022年 3月期計画	
	金額	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
<b>【主要為替レート】</b>											
米ドル	108.39	110.91	-	110.94	-	108.80	-	106.05	-	105.00	-
人民元	16.36	16.63	-	16.72	-	15.61	-	15.66	-	16.30	-
タイバーツ	3.08	3.30	-	3.42	-	3.51	-	3.41	-	3.42	-
売上高	2,061	2,198	100	2,556	100	2,283	100	2,094	100	2,387	100
<b>【得意先別売上高】</b>											
ホンダ	1,446	1,516	69.0	1,688	66.0	1,444	63.3	1,332	63.6	-	-
受注生産台数(万台)	461.6	478.3	-	494.3	-	441.3	-	424.0	-	477.0	-
トヨタ	154	178	8.1	327	12.8	317	13.9	343	16.4	-	-
SUBARU	202	212	9.6	213	8.3	202	8.9	147	7.0	-	-
欧州メーカー (ジャガー・ランドローバー、BMW)	27	48	2.2	70	2.7	106	7.0	93	4.4	-	-
その他	232	244	11.1	258	10.1	214	6.9	179	8.6	-	-

※上記数値は億円未満を四捨五入して表示しています。

### 設備投資・研究開発の概況

#### 設備投資の実績と見通し

当社グループの設備投資については、新規車種の展開、景気予測、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。

2021年3月期の設備投資額の総計は、216億円となりました。内訳は、新機種の立ち上げに伴う機種投資が85億円、汎用投資等の基礎投資が131億円となりました。

#### 研究開発の実績と見通し

当社グループは、軽量・高剛性な車体部品の開発・製造に関わる研究開発活動を推進しております。この中で、環境規制、安全、車両電動化に関する先行技術や新製品の研究開発は、ジーテクト東京ラボ開発本部開発部がその役割を担っています。2021年3月期の研究開発費の総額は11億円であり、主な研究開発のテーマは、次のとおりです。

#### <先進技術開発>

EV化の加速を受けて、従来の車体のマルチ

マテリアル化のための新素材の加工、接合技術の早期量産化に加え、電動化によりさらに厳しくなる強度要件、軽量化要求に対応していくための要素技術開発にも着手しております。具体的には、以下のテーマに取り組んでいます。  
①低歪の高速連続接合、②異種材料接合技術、③接着接合、④テーラードプロパティ、⑤重量増となる電動車に対応する高強度軽量素材の成形技術開発(鉄/アルミ/複合材)

#### <電動化対応>

電動車車体は、旗艦車種向けの高性能で最軽量の仕様、普及車種には価格と軽量化のバランス仕様という2つのニーズを想定しています。そのニーズに応えるために、今期は以前より開発を進めていたバッテリーハウジングのコンセプトを提案し、技術展示会への出展を行いました。最軽量の仕様には、先進の軽量化素材を高効率かつ高精度に組み合わせる設計能力と接合技術が必要であり、普及仕様についてはコスト低減と生産性の向上が望まれます。それらの要素を踏まえ

て今期は鉄・アルミのハイブリッド型のコンセプトとしました。

また、EVには、バッテリーハウジングと車体構造が複合的な機能をもつ非常に重要な部品群となっていくことが求められるため、仕様構築には高度な設計検討能力が必要となります。この課題に対しては軽量化提案活動により獲得した車体一台解析技術を駆使することで、EVの2極化のニーズに向けて、バッテリーハウジングを含めたEV車体の開発を進め、EV専用プラットフォーム提案につなげてまいります。主な開発内容は次のとおりです。  
①多くの顧客向けの仕様を容易に構成できるフレキシブル性、②ボリュームゾーンに対応できる高い生産性をもった環境負荷の低い工法の選択と仕様構築、③鉄主体とした価格と軽量化の両立、④上記の要素を織り込んだ例として具現化したバッテリーハウジングコンセプトの提案、⑤ボディとパワートレインをつなぐシャーシ部品領域の仕様構築ノウハウの蓄積、⑥電動車両としての衝突安全性に配慮した車一台分の最適仕様の構築

(単位:億円)						
	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期計画
設備投資	224	219	224	301	216	191
機種投資	127	94	149	133	85	95
基礎投資	97	125	75	168	131	95
減価償却費	213	197	213	196	197	155
研究開発費	22	20	24	24	24	27